平成29年度

むかわ町地域主体の一体的な森林づくり

～間伐コスト縮減に向けた取り組み～

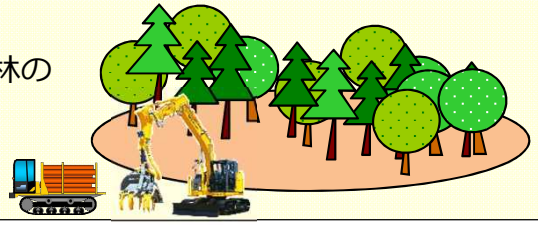
胆振東部森林管理署

＜協定の概要＞

○目　　的　むかわ町における国有林、道有林、町有林や私有林が所管を超えて、流域が一体となった森林の整備・管理、森林資源の循環利用及び木育を推進し、地域の振興・再生に貢献する。

○協 定 者　むかわ町・北海道（胆振総合振興局）・胆振東部森林管理署

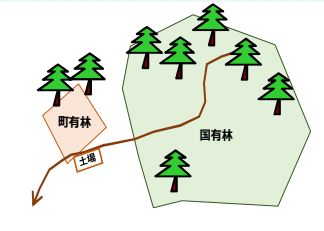
○内　　容　①森林の一体的な整備・管理　②森林資源の循環利用　③木育の推進



＜平成２９年度の取組内容＞

①民国連携システム販売

新たな民国連携システム販売箇所を選定するための資料として、平成28年度実施したシステム販売について低コスト化が図られたか分析・整理した。



②連携したOJTの実施

各市町、森林組合の新任・若手職員を対象に、森林室と連携して現地での勉強会を開催した。

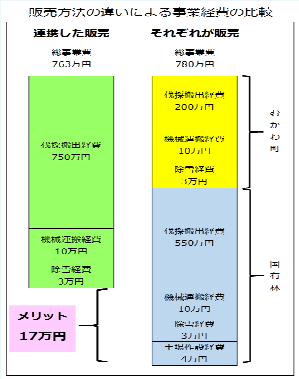
③地域林業ネットワークの構築

むかわ町を含む胆振東部地域の林業労働者の新規就業対策の確保、育成対策を進めるため、関係機関（教育機関、労働局、北海道、市町村、林業事業体、国有林）と協議会を立ち上げ、林業関係者と教育現場の声を聞く場を設けた。

＜成　果＞

①民国連携システム販売（コストの比較結果表を作成）

買受業者と協力して、連携した場合、しなかった場合について、比較結果表を作成した。その結果、国有林、民有林が同一の路網を使用し、既存土場を共同利用したことにより、17万円削減することができた。なお、産出した材は地域の公共施設及び地域住宅へ提供をしたとの報告があった。



②連携したOJT（列状間伐のメリット等を説明）

森林室や当署署員が講師となって、町有林の間伐対象林で樹高測定や標準地内の収穫調査実習を行った。実習後、当署から「国有林では、生産性の向上や安全性の確保の面からも、列状間伐を推進している」旨説明した。質疑の中で、参加者から「未間伐林の施業方法についてどうすべきか」、「皆伐して植栽したいが予算ない」、「トドマツ造林地ではエゾシカの角研ぎ被害が深刻」など地域が直面している課題が提起された。

③地域林業ネットワーク（関係機関との情報共有体制の構築）

協議会では、北海道及び胆振管内の林業労働者の減少状況、胆振東部管内の求人状況や高校生の就職状況等情報提供され、国有林からも、継続した雇用実現の観点から「森林管理局の木材供給量の見通し」について情報提供した。その後、参加者による意見交換を行い、今後も地域の関係者が連携して取り組む体制の構築を図ることとした。

また、新規就業者を確保する取組みとして、地元高校生が林業関係者の森林施業研修「山つくり講座」に参加し、地元の山づくりの体験を通じて、林業に関する理解を深める機会を設けた。

＜今後に向けて＞

３者の連携を強化し、間伐コストの縮減に向けて、民国連携システム販売等の実現に向けて取り組んでいく。そのために、各機関にとってメリットがある間伐箇所を選定し、ストックヤードなどについても検討しながら事業の効率化や低コスト化を図っていくことが重要。こうした取り組みにより雇用の拡大など地域の振興・再生に貢献していく。